

Kurt Vonnegut Jr.

(1922/11/11 - 2007/4/11)

So it goes.

Tralfamadorians

ヒヨコのわき道

ほら、君もこっちに いらっしゃい

第 60 回 ヒヨコさん。あなたに神の御恵みを？

「カート・ボネガット」

今回は、ある小説家を紹介したいのです。それはアメリカのカート・ヴォネガット（一時期までは Kurt Vonnegut Jr. と名乗っていました）です。彼は 1922 年 11 月 11 日生まれ。既に故人です。日本ではあまり有名でない気もするのですが、アメリカでは偉大な作家と評価されています。「スローターハウス 5」「タイタンの妖女」「スラップスティック」「ガラパゴスの箱舟」「ローズウォーターさん あなたに神の御恵みを」などが大変高く評価されています。そこらのミリオンセラー作家など、消し飛んでしまうようなものです。

「これ、SF なんですか？」

さて、彼の作品に興味を持って、大きな書店に行ったとして、どんなジャンルにあたるのか、案内端末無しでガチで探してみるとなると、結構大変。

三省堂本店を散々さまよった末、たどり着くのは「ハヤカワ SF 文庫」。

そう、カート・ボネガットは SF 作家なのですよ。

ただし、かつていいロボットやスーパーヒーローが宇宙空間でビーム砲をぶっ放し、敵や魔王を粉砕する。なんて内容とは全く異なります。勘違いの無いように。

どちらかというと、「カッコいいもの」は全く出てきません。

私も、ハヤカワ SF 文庫の棚で彼の作品に出会い、夢中になりました。

「人間は何をしてきたのか？」

まず、「タイタンの妖女」を紹介します。

この物語には様々な奇妙な人物や、大富豪やらが登場し、人間同士の複雑なドラマが編まれていきます。一方、土星の衛星タイタンで、ある異星人が「故障した宇宙船」の交換部品が届くのを 50 万年も待っています。その間、地球の上では人類が登場し、様々な文明が栄え、そして滅んでいきます。

でもその人類の様子は、異星人の本星からのメッセージだったというのです。本星から 50 万年の間、地球はひそかにある干渉を受けていたと。たとえばイギリスの有名な遺跡「ストーンヘンジ」の意味は、「目下交換部品作成中」。

ならば地上で今起きている本作中の人間たちの行動の意味は？そして異星人の旅の本当の目的は？

「天才大統領巨人？」

次は「スラップスティック」です。冒頭で彼は、この作品は自伝に近いと述べています。でも主人公は、化石人類の容貌と六本指のアメリカ最後の大統領。

そしてため息をつくように執筆中の自伝（本作）に「ハイホー。」を連発します。

物語の中ではある大国の台頭により、超人的な技術が開発され始めます。世界の環境は激変し、結局崩壊に向かうのですが、そのときこの大統領は「ある方法」で解決策を導き出すのです。その顛末とは？

「どうかしっちゃった大富豪？」

次は「ローズウォーターさん あなたに神の御恵みを」を紹介します。

中年の彼はある財団の総裁で、とにかくとてつもない大富豪。まるでダイヤモンドのなる木と、たくさんの金の卵を産むガチョウを同時にもっている以上の。

ところがこの人、どっかオカシイというか、ぶっ飛んでるんです。

あまたの美術品を買い集めるなど当たり前。やたら消防団に入れ込んで応援するわ。しまいには屋敷を飛び出して非常に貧しい街の一室に相談所を設けて住み込み、決して魅力的とは言えない（性格的にも、経歴的にも、時には衛生的にも。）その町の人々に一人ひとり手を差し伸べ、相談に乗ったり、少額の出資をするというお話です。

とっても変わってるでしょ？ 実際、彼の奇行ぶりに目を付けた弁護士が、ローズウォーターさんの遠縁の「次期総裁候補」を担ぎ出し、裁判で総裁の座を奪おうとするのです。

それでも、ローズウォーターさんの「相談室」には灯りがともっているのです。

さて、どうなることやら？

「結局。」

カート・ヴォネガットの作品に興味がありましたか？

それとも SF 小説には興味ないですかね？

私はこのコラムで以前、「私は今でも星空が恐ろしいのです」と書きました。私達は、ある巨大なシステムに属していて、その力の前には全く無力であると。しかし、ここで生きねばならないのだと。ではどうすればよいのか？

彼の作品を読んでいると、カート・ヴォネガットは同じことを考えていたのではないかと私は想像します。カート・ヴォネガットの一見荒唐無稽なストーリーに一貫したメッセージとは、何の理由もなく他者に手を差し伸べることが出来なければ、泣いている子供と共に涙を流すことが出来なければ、それ以外の「愛」と呼ばれるものは、すべて打算と欺瞞に満ちた残酷に過ぎないと。何の得も理由もなく、他人に優しくすること以外に、このような世界で一体他に何ができるのかと、叫んでいるような気がするのです。それが実際にナチスドイツの捕虜となり、数々の苦難と恐ろしい残虐行為を経験したカート・ヴォネガットのメッセージではないかと。

どうですか、一冊読んでみませんか？

ところで、ローズウォーターさんが消防団員に入れ込むのは、いざ火災となれば、それが「どんな人間の家」であろうが、「普段は憎しみ合っている相手の家」であろうが、一目散に駆け付けるからなんだそうですよ？

ハイホーびよびよ。